

北海道浮魚ニュース

平成 11(1999)年度 11号(通巻 No.57)

1999年8月12日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

平成 11 年度北西太平洋サンマ長期漁況海況 予報発表される。

8月9～10日に東北区水産研究所(塩釜市)において、平成11年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

【漁況予測】

漁場への来遊状況

北上期及び索餌期の流し網調査による反当り漁獲尾数は前年より多かったが、156°E以東に魚群がほとんど分布せず後続が見込めないこと及び魚体が前年より小さいことから、漁期前半(10月上旬)までの漁場への来遊資源量の水準は、漁況が近年で最も低い水準であった前年(1998年)並かあるいはそれをやや上回る。

魚体組成

漁期当初から中型魚主体で大型魚・小型魚混じりで漁獲される。漁期の進行に伴い、小型魚の比率が高まる。

漁場位置

7月～8月上旬の魚群分布及び小型船の漁況の動向からみて、解禁当初の漁場はロシア200海里内のウルップ島沖に形成される。南下期には、漁場はしだいに南西に移動し、色丹島沖暖水塊の縁辺部を経て三陸沖暖水塊の北東側に形成される。南下の時期は中・小型魚の占める割合が高いことから、例年と比較して遅くなるものと思われる。その後、魚群は三陸沖暖水塊を避けて東西に分かれて南下すると思われるが、親潮第一分枝が弱勢なことから第一分枝沿いの漁場形成は散発的になる可能性がある。

【海況予報】

今後の見通し (1999年9~11月 図1)

近海の黒潮の北限は $36^{\circ}30'N \sim 37^{\circ}30'N$ で推移する。

黒潮系暖水の北への張り出しは、沖合を中心に北寄りに推移する。

近海 ($146^{\circ}E$ 以西) では、11月までに $41^{\circ}N$ を越えて張り出す。

沖合では $149^{\circ}E \sim 151^{\circ}E$ で $40^{\circ}N$ を越えて張り出す。

三陸沖暖水塊は北東へ移動する。常磐沖暖水塊は西に移動する。

色丹島沖暖水塊は北東へ移動する。

親潮第1分枝は今後も大きく南下することなく、 $40^{\circ}N$ 以北にとどまる。親潮第2分枝の張り出しは $38^{\circ}N$ 付近までである。三陸から常磐近海では第2分枝から散発的に冷水域が波及する。

津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢 ($143^{\circ} \sim 143^{\circ}30'E$ 付近) である。

(文責：釧路水産試験場資源管理部

直通電話 0154-23-6222)

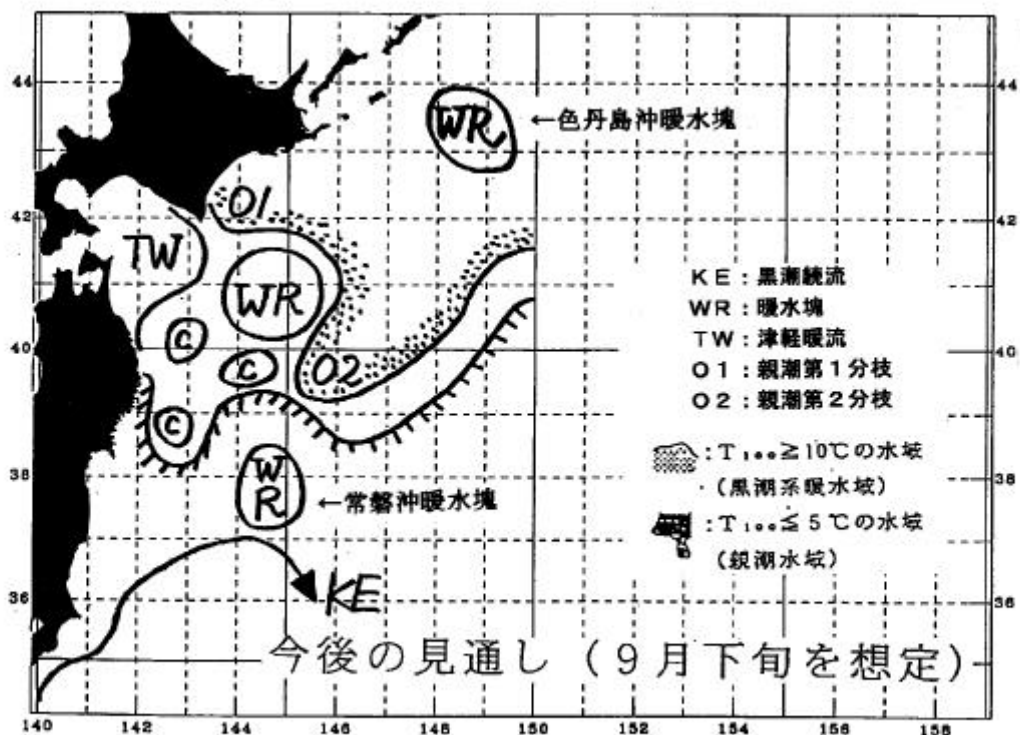


図1 海況の見通し (9月下旬を想定)